

InstallShield 11

2005 年 5 月 3 日

はじめに

アプリケーションの開発にはいつも貴重な時間と労力が膨大に費やされます。それにもかかわらず、今なお旧式のインストーラや、自社インストーラで満足している方々がいるのはなぜでしょう。これを機に、業界トップのセットアップソリューションである InstallShield 11 を是非ご利用ください。新しい InstallShield 11 では、MSI 3.1、Try and Buy 機能、Oracle データベース、IIS 6、RPM をはじめとする最新のテクノロジーと業界基準のサポート、および 64 ビット Intel および AMD サポートを含む 20 を超える InstallScript™ へ強化点が搭載されました。

InstallShield 11 を利用するだけで、開発者の方々は簡単に Windows Installer (MSI)、InstallScript およびクロスプラットフォームのためのインストーラを作成し、さらにそれをデータベースサーバー、Web サービスおよびモバイルデバイスにまで拡張することができます。

InstallShield 11 は、InstallShield DevStudio、InstallShield MultiPlatform、InstallShield X および InstallShield 10.5 からのダイレクト アップグレードです。

[トップに戻る](#)

システム要件

Windows の場合:

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

400 MB の空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 2000、Windows XP、または、Windows Server 2003

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

権限

システム上での管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

Linux、UNIX、Mac、OS/400 の場合:

各プラットフォーム/OS でサポートされている個々の JVM については Universal ヘルプライブラリの“開発およびエンドユーザー環境要件”を参照してください。

プロセッサ

400 MHz のプロセッサ

RAM

128 MB の RAM

ハードディスク

Windows 以外のプラットフォーム上での Universal インストールの場合 : 158 MB

サポートされているプラットフォーム

AIX: 4.3.2、5.1.0/5L、5.2、5.3 (Premier Edition のみ)、Generic UNIX、HP-UX: 11.i v1-v2、11.0、11.x、10.x; Linux: Red Hat、Suse、Mandrake、Free BSD、Caldera、Debian、Slackware、Gentoo、Knoppix; Mac OS X: 10.0-10.3; OS/400: V5R1-3 (Premier Edition のみ)、Solaris: 2.7、8-10; Windows: 98、ME、NT4、XP、2000、2003 Server。すべてのプラットフォームは、JRE/JDK バージョン 1.4.2 以降と共にサポートされています。これらは、Universal IDE に必要です。Universal Installer ランタイム用には JRE バージョン 1.2.2 以降がサポートされています。Java 1.5 のサポートは、ランタイムに追加されました。

[トップに戻る](#)

参考情報

MSI 3.1 の最小要件は、Windows 2000 SP3 以降です。インストールに MSI 3.1 エンジンを含めるよう選択することもできますし、このプロパティは [バージョン 3.1 または 2.0 (ど

ちらかシステムに最適なもの] オプションを選択することもできます。インストールを最適オプションと共にビルドすると、InstallShield は 3.1 エンジンと 2.0 エンジンを含めます。ターゲットオペレーティングシステムが Windows 2000 SP3 以降の場合、MSI 3.1 エンジンが (既に存在しない場合) インストールされます。ターゲットシステムが最小要件を満たさない場合、MSI 2.0 が (既に存在しない場合) インストールされます。

より高速の評価版ダウンロードを提供するために、評価版インストールは 450 MB から 225 MB に縮小されました。

[トップに戻る](#)

新機能

Windows ベースの開発者にとって新しい機能

MSI 3.1

InstallShield 11 には、新しい Microsoft Windows Installer 3.1 と共に利用可能な 次の 2 つの新しいパッチ関連プロパティのためのサポートが含まれています：
MinorUpdateTargetRTM、OptimizedInstallMode。

Try and Buy 機能

Try and Buy バージョン ソフトウェアは素早く簡単に作成することができます。労力は最小で済みます。簡単な 3 つの手順を踏むだけで、完全版と同機能で、所定の日数/利用回数が過ぎると有効期限が終了するようにカスタマイズされた、簡単に素早くアクティベートすることができる製品のトライアルバージョンを作成することができます。

InstallShield Activation Service

InstallShield アクティベーション サービスの利用により、偶然によるソフトウェアの著作権侵害が不可能になるので、貴重な財産を守ることができます。この新しいサービスは、InstallShield 11 の Try and Buy 機能と併用することにより、市場における存在感が著しく高まり製品収益の向上に繋がります。この統合された、エンドツーエンド ソリューションは、最小の管理と開発労力で、素早く簡単に実装できます。

Oracle データベースサポート

唯一 Oracle を完全サポートしている InstallShield では、簡単に Oracle データベースサーバーへ接続したり、SQL スクリプトをインストールの一部として実行したりすることができます。ターゲット データベース サーバーの種類に関わらず、統合されたデザイン環境内のシングルビューから SQL スクリプトを構成したり、すべてのデータベース サーバーにインストールが可能な SQL スクリプトを持つセットアップを作成したり、特定のベンダーのデータベースサーバー上でのみ実行可能な SQL スクリプトを作成したりすることができます。

IIS 6 サポート

InstallShield は、IIS (Internet Information Services) 6 を完全サポートする Web サービスを配布するための究極のソリューションです。Web サービスを配布、または、Web サービスを既存のプロジェクトに追加する新しいインストールプロジェクトを簡単に作成できます。IIS 専用にデザインされたビューを利用して、新しい Web サイトの作成、仮想ルートの構成など、IIS 6 のすべての側面を構成できます。IIS 6 サポートにより、アプリケーションプールおよび Web サービス拡張の作成および構成も可能です。

強化機能！ IIS ユーザーインターフェイス

IIS ユーザーインターフェイスは使いやすさを考え、Windows 管理ツールセット内にある IIS Microsoft Management Console に似せてアップデートされました。ユーザーフレンドリーなインターフェイスにより、IIS ビューを使った IIS 6 関連のプロパティの構成が簡単に行えます。IIS マネージャにあるプロパティ ダイアログによく似たタブ付きフォームから、IIS マネージャおよび InstallShield デザイナから IIS ビューを開いて、インストールプロジェクトを構成できるようになりました。

強化機能！ オブジェクトとマージモジュール

新しいオブジェクトとマージモジュールが追加された [ライブ再配布可能ファイルギャラリー] で、Jet、Crystal Reports、WMI など頻繁に使用されるテクノロジーのサポートを簡単にプロジェクトへ追加できるようになりました。

DIFx 1.1 サポート

ローカライズ済み、または 64 ビットのデバイスドライブ インストールを有効化する新しい Driver Install Frameworks for Applications (DIFx) 1.1 の完全サポートにより、デバイスドライバを MSI または InstallScript MSI プロジェクトに追加する手続きが簡単になりました。

64 ビット サポート (InstallScript)

Windows Installer (MSI) インストールに加え、InstallScript インストールも今回より、64 ビットファイルをインストールおよび登録できるようになりました。64 ビットシステムフォルダとのインタラクトおよび 64 ビットレジストリも同様に完全サポートされています。この新しい機能は、Intel および AMD 64 ビットプラットフォームの両方にサポートされています。

強化機能！ カスタム機能コストのサポート/LaunchAppAndWait Callback 関数 (InstallScript)

強化されたカスタム機能コストのサポートにより、メインセットアップのファイル転送中に実行される外部または XCopyFile ベースのファイルコピー操作のための進行状況バーの変換がよりスムーズになりました。

強化機能！ MD5 シグネチャ サポート (InstallScript)

InstallScript プロジェクトのための MD5 シグネチャ サポートが強化され、ディスク上にある 2 つのファイルの MD5 シグネチャ を計算、比較し、ファイルが同一かどうかを判断で

きるようになりました。また、既存のファイルの MD5 シグネチャを計算して、メディアにあるファイルの計算済み MD5 を取得できるようになりました。

強化機能！改善されたステータス ダイアログ ユーザーインターフェイス (InstallScript)

InstallScript プロジェクトのためのステータス ダイアログ ユーザーインターフェイスが改善され、'静的' ステータステキストのカスタマイズ用にビルトインサポートが装備されました。'静的' テキストは今回より、インストール、修復、アンインストールなど実行中の操作に合わせて規定値に設定されます。また、今回より [キャンセル] ボタンを無効にすることも可能になりました。

リスト関数 (InstallScript)

あるリストから別のリストに要素を追加する ListAddList、特定のリストから要素をすべて削除する ListDeleteAll、リストデータを Unicode または ANSI ファイルに書き出す ListWriteToFileEx などの新しいリスト関数が InstallScript プロジェクト用に追加されました。

SYSINFO メンバ (InstallScript)

InstallScript プロジェクトのための新しい SYSINFO メンバには、システムにインストールされている IE のバージョンに初期化された szInstalledIEVersion、Windows OSVERSIONINFOEX 構造体の wSuiteMask に初期化された nOSSuiteMask、および Windows OSVERSIONINFOEX 構造体の wProductType である nOSProductType などがあります。

グローバル SYSPROCESSORINFO 構造体 (InstallScript)

Windows SYSINFO 構造体に似た、InstallScript プロジェクトのための新しいグローバル SYSPROCESSORINFO 構造体には、Windows SYSINFO 構造体に対応する情報が含まれています。

クロスプラットフォーム開発者にとっての新機能

RPM サポート (Premier Edition 限定)

RPM (RPM Package Manager) の完全サポートが追加され、Linux プラットフォームまたは RPM がインストールされたすべてのプラットフォームにプロフェッショナルグレードのインストールを作成できます。また、RPM Installer プロジェクトタイプを利用する際、InstallShield の使いやすく、質の高いエンドユーザー インターフェイスを利用して、配布機能、前提条件管理、パッケージ統合による安定性の検証という強固な組み合わせからなる RPM を最大限に活用することができます。さらに、同一のプロジェクトで Linux に RPM を、非 Linux に Universal を使用することができます。

インポート/エクスポートダイアログ

プロジェクト間、チーム間でダイアログを共有することにより、開発時間の短縮につながります。この機能により、すべてのプロジェクトのカスタムダイアログを標準化し、それらをプロジェクトごとに再作成する手間が省くことができます。

コンデンス インストール (A Premier Edition 限定)

ニーズに合わせてユーザー (システム管理者) がコンデンスすることができるインストールを簡単に配布することができます。InstallShield の新しいコンデンサ機能を利用すると、エンドユーザーは配布された製品で異なるインストールを作成することができます。エンドユーザーがルート製品のロケールおよびターゲットとなるプラットフォームに基づいて特定のアセンブリをフィルタリングすることができる 2 つの新しいプロジェクトタイプを構成、配布します。

“JVM が見つかりません” メッセージ

この強化された機能を利用すると、JVM が見つからないケースで、エンドユーザーに製品のインストールまたはインストール済み Java 製品の実行のために適切な JVM を取得できる場所を通知するカスタムメッセージを表示することができます。

オートメーションレイヤのビルド

[オートメーションレイヤのビルド] により、Universal インターフェイスを使用せずにビルドをカスタマイズできます。提供された API を使用する Java コードを書いて、プロジェクトを変更します。この機能は、所定のビルドプロセスを強化し、ビルドの前に変更が必要なプロジェクトまたはプロジェクトバージョンが多数ある場合特に役に立ちます。

ダイナミックスイート (Premier Edition 限定)

強化されたダイナミックスイート プロジェクトタイプでは、複数メディアを分割することによりスイートのインストールがより柔軟に行えるようになりました。アセンブリは、ターゲットマシンに 1 度だけインストールされ、そのマシン上で複数の製品インストールによって利用されます。

追加のアセンブリ強化点 (Premier Edition 限定)

すべての製品インストールおよびアセンブリベースのスイートインストールは、専用の [プログラムの追加と削除] エントリを持ちます。スイートインストールからの言語は今回より、エンドユーザーが選択できるようにロケールダイアログで表示できるようになりました。また、ロケール条件も、インストールされたすべてのアセンブリに適用できるようになりました。新規の改良点により、規模の大きいプロジェクトのインストール時間も大幅に短縮しました。

[トップに戻る](#)

バグ修正

Windows Installer プロジェクトタイプ

17816

ダイアログのデフォルトコントロールを削除した際、ランタイムにエラー 2808 が発生していた問題は解決されました。

1-105XWP

[ログオン情報] ダイアログは、エンドユーザーにユーザーアカウント情報を入力するように要求します。Windows 2000 を実行している一部のマシンでは、これまでこのダイアログは常にエラーを生成していました。パスワードが正しく入力されたときも、エンドユーザーが無効なパスワードを入力したというエラー情報が表示されていました。

この問題のワークアラウンドとして、[ログオン情報] ダイアログで入力されたパスワードは今後、Windows 2000 マシンで検証されません。この変更は、InstallScript プロジェクトおよび InstallScript MSI プロジェクトの SdLogonUserInformation 関数および基本の MSI プロジェクトの [ログオン情報] ダイアログで加えられました。

1-107ETJ

.NET 1.1 を SP1 と共にインストールしても、インストールの前にロックアップすることはありませんでした。

1-10CIHD

SQL スクリプトのテキスト置換は、InstallShield 10.5 で適切に動作していませんでした。これは、InstallShield X SP1 からの破損箇所です。InstallShield 11 では修正されています。

1-10CQYX

.NET 依存ファイルがプロジェクトに存在することによりエラー -6213 が発生していた問題は修正されました。

1-YLXXP

InstallShield 10.5 では、Trialware ビューは .exe ファイルのラッピングのみをサポートしていました。今回より、.dll および .ocx のファイルも同様にラップできます。

1-10EU4N

オートメーションレイヤを使用してファイルのバージョンをオーバーライドする手続きは今回より適切に処理され、InstallShield インターフェイスで開いたときにも適切に表示されません。

1-116VP9

SQL サポートを含む InstallShield 10.5 で作成されたパッチをインストールした際、“エラー 27505。SQL スクリプトファイル script2 を開くことができませんでした”というメッセージが

表示されていまして、この問題は InstallShield 11 で修正されました。

1-11KGNP

関連する XML ファイルの変更を含むコンポーネントを複数の機能に含めると、セットアップがランタイムに失敗していました。この問題は修正されました。

1-11ZOQ9

今回より Windows XP SP2 上で製品を Update Service に登録することができるようになり、承認後も [ODBC] エラーで応答しなくなりました。

1-127RMY

デバイスドライバ ウィザードは、一部のデバイスドライバ .ini ファイルとクラッシュしなくなりました。

1-12KXBD

今回より、ローカライズされた製品名は初期化ダイアログおよび Setup.ini ファイルで適切に表示されるようになりました。

1-12VKHP

スクリプトの生成中、次のエラーが起きていました。“InstallShield デザイナが 英語以外の言語システムで実行されているとき、データベース インポートで '無効な OLEVERB 構造体' が発生しました。” この問題は InstallShield 11 で修正されました。

1-12XCJ9

データベース インポート ウィザードは、列を計算したテーブルに INSERT ステートメントを不正確にスクリプトしていました。この問題は InstallShield 11 で修正されました。

1-12XXTX

シングルバッチに多数の INSERT ステートメントが存在した場合、InstallShield SQL ランタイムはすべてのコマンドを完了しませんでした。この問題は InstallShield 11 で修正されました。

1-14JQ5N

setup.exe ファイルの “製品名” と “バージョン” プロパティは今回より、20 文字以下の短い長さに途中で切れることはなくなりました。

1-14KXHD

今回より Update Service ビューでは、InstallShield インターフェイスのリンクから既に登録

済みの製品の新しいバージョンを登録することができます。

1-152341

MSI 3.0 および .NET は今回より、再起動後もエラー 1651 が発生することなく Windows 2000 SP4 で適切にインストールされるようになりました。

1-15N2FQ

インストールを IIS と共に実行する前にサービス IIS Admin と W3SVC を停止すると、ランタイムエラー (IISRT -1106) が発生していました。この問題はオペレーティング システム固有の問題で、現在は解決されています。

1-15QYNY

ISXmlInstall または ISXmlInstall カスタムアクションタイプへの変更はこれまでどれも、次の XML アイテムが InstallShield デザイナでアップデートされると元に戻されていました。今回より、アクションが既に存在する場合、ユーザーがタイプの変更をする場合、InstallShield デザイナはタイプを変更しません。ただし、これらのアクションにカスタムアクションタイプの変更を行わないことを強くお勧めします。

1-15VXVW

XML 属性 "Prepend (先頭に追加)" 設定は今回より適切に動作します。これまで、"Append (付加)" 設定が XML の属性に指定された場合、元の値はインストール時に付加されずに上書きされていました。

1-15WC01

XML の設定を含むアンインストールは、関連する XML コンポーネントがパーマネントとしてマークされているとき、失敗していました。

1-6MRJG

MSI ベースのプロジェクトのダイアログエディタのチェックボックス コントロールを作成する際、関連するプロパティのデフォルト値は今回より、0 ではなく 1 に設定されます。これにより、デフォルトでチェックボックス コントロールがランタイムで非表示ではなく表示されます。

1-6P7IE

アンパサンドを含む製品名リファレンスは今回より、ランタイムダイアログで適切に表示されます。すべてのデフォルトコントロールは "NoPrefix" 属性をセットするように変更されました。これまで、この属性がない場合、アンパサンドは次に来る文字と共に、ホットキーに対応するニーモニックとして解釈されていました。

1-6SB20

ダイアログエディタでコントロールを移動してから、別のダイアログをクリックしたときにその移動を取り消した場合、取り消し操作の結果は InstallShield のインターフェイスでは表示されません。

1-AWLNR

すべてのラジオボタンコントロールは今回より、BS_MULTILINE 属性がデフォルトで設定されています。これまで、改行文字を持つラジオボタンテキストは新しい行ではなくリテラル文字を表示していました。

1-EG96Q

ODBC ビューからの Access Driver が、odbcjt32.dll が保護付きファイルになっている Windows 2000 で odbcjt32.dll をインストールしようと試みていた問題は解決されました。

1-JW361

Web サイトのディレクトリまたはターゲットディレクトリとして共有ロケーション (UNC パス) を指定するオプションが追加されました。これまで、唯一のオプションはローカルパスの指定だけでした。このオプションは、Web サイトの [ホームディレクトリ] タブおよび仮想ディレクトリの [仮想ディレクトリ] タブで見つかります。

1-UHSU1

IDE は今回より適切に、Jet351.msm マージモジュールを開きます。Windows Installer エラー 2228 は発生しなくなりました。

1-X6HBC

Windows Mobile インストールでは、アプリケーションを Windows Mobile 2003 Second Edition ベースのデバイスへ配布する際次のような警告を表示していましたが、この問題は解決されました。“インストールされたプログラムは Windows Mobile ソフトウェアの以前のバージョン用に設計されているため、適切に表示しない可能性があります。”これは、基本の MSI、InstallScript MSI、およびスマートデバイス プロジェクト タイプに適用します。

1-XG2AP

IIS バージョン 4 以降がインストールされてある場合、[再試行] ボタンをクリックしてインストールを続行できるようになりました。この問題が修正される以前は、[再試行] ボタンが動作していなかったため、IIS がインストールされているかどうかを確認する際、ユーザーはインストールを再開しなければなりませんでした。

1-ZF6VM

“NT プラットフォーム用 InstallShield MSDE 2000 オブジェクト” ウィザードが起動できないという問題がありました。この問題は InstallShield 11 で修正されました。

1-ZYOH

再配布可能ファイルビューで DirectX9 マージンジュールオブジェクトをダウンロードした際、訂正されたエラーが表示されました。

InstallScript プロジェクトタイプ

1-10D25P

InstallScript シグネチャの検証ツールは今回より、完全発行チェーンを含まない有効な証明書に対して適切に動作します。

1-14112M

プラットフォームスイートのフィルタリングは今回より、オブジェクトプロジェクトで適切に動作します。これまで、コンポーネントに指定されたすべてのプラットフォームスイート情報は、オブジェクトのビルド時に無視されていました。

1-165SC1

OnIISInitialize および OnXMLInitialize は今回より、“MoveData” セクションに適切にリストされます。これまで、これらは “BeforeMoveData” セクションで誤ってリストされていました。

1-165SCG

Update Service サポートファイルは、IE の適切なバージョンがインストールされているときのみインストールされるようになりました。これまで、あるケースにおいて Update Service ファイルは、IE のサポートされていないバージョンがインストールされている、またはどのバージョンもインストールされていないときもインストールされていました。

今回より、Disable(INSTALL_UPDATE_SERVICE) を呼び出すと Update Service ファイルはインストールされません。これまで、この関数を呼び出すと ENABLEDISERVICES は適切にアップデートされていましたが、Update Service サポートファイルはまだインストールされていました。

Update Service のステータス (Update Service サポートが有効か無効か) はメンテナンスモードで記憶されます。これまで、Update Service サポートが Disable (INSTALL_UPDATE_SERVICE) で無効にされた場合、インストールがメンテナンスモードで実行されたときに再有効されることがありました。

1-4ZF4J

メディアレポートは、今回より、メディアの中のファイルに対して適切な MD5 値を表示します。これまで、表示された MD5 値には転置された数字がふくまれていました。これが原因で、MD5 値が他のツールで生成された MD5 値と比較されたとき問題が発生していま

した。

1-6Y2E8

InstallScript プロジェクトで、ダイアログエディタのコンボボックス コントロールにある Tab Stop (タブストップ) プロパティが "True" に設定された時に、ビルドされたインストールにこの変更が反映されませんでした。この問題は修正されました。

1-AXQS9

今回より、InstallScript MSI インストールで FeatureFileInfo は長いファイル名を持つファイルにも適切に動作します。これまで、有効な長いファイル名が指定された時にエラー - 112 が戻されることがありました。

1-DEYF8

今回より、様々なセットアップタイプ ダイアログがサイレントモードで動作します。以前は、セットアップタイプ ダイアログのひとつがサイレントモードで呼び出された時に指定されたセットアップタイプに設定されず、その結果、機能が不適切にインストールされる場合がありました。

1-IB0JI

今回より、複数行ラジオボタンは ¥n を新しい行の生成とみなします。

1-PWUPT

今回より、_Isuser.dll に保存されているリソースを InstallScript MSI パッチセットアップで利用することができます。以前は、パッチセットアップが _Isuser.dll をロードしなかったため、SdLoadString を含む関数の一部が失敗しました。

1-UYFDL

複数言語 MSI ベース インストーラのデフォルト言語のサポートファイルおよびのカスタムダイアログが今回も含まれており、適切にビルドされます。

1-W3BCX

マージモジュールを含む InstallScript プロジェクトのビルドを行った際、一部のシステム上で一般保護違反 (GPF) が発生していた問題は解決されました。以前は、一部のシステム上でマージモジュールを含む InstallScript プロジェクトをビルドしようとすると、一般保護違反 (GPF) が発生しました。

1-W5B1S

今回より、アンインストール中にもプログレスバーはスムーズに動きます。以前は (特に同じロケーションへ多数のファイルをインストールするインストールの場合)、アンインストール

ールのプログレスバーの動きが非常に遅く、アンインストールの完了に近づくと突然 100% へ移動する場合があります。

1-WFCX9

今回より、インストールの初回 UI モードで実行中にスクリプトによって IFX_PRODUCT_REGISTEREDCOMPANY および IFX_PRODUCT_REGISTEREDOWNER がカスタマイズされた場合、それらはメンテナンスモードに格納されます。以前は、インストールがメンテナンスモードで実行されている場合、これらの値はメディアに格納されているデフォルト値へリセットされました。

1-WKTZP

今回より、MFC 7.0 マージモジュールを InstallScript プロジェクトへ追加しても、プロジェクトのビルド中にクラッシュすることはありません。

1-WLKX5

今回より、インストールがターミナルサービスを有効にしたシステムで実行されても、またはリモート接続を利用して実行しても(あるいはその両方)、失敗して -5006 エラーが発生することはありません。以前 InstallShield 10.5 で、特定のシステムにおいて、InstallShield 10.5 でビルドされたインストールが初期化中に -5006 エラーが発生して失敗することがありました。

1-X4LE4

InstallShield 10.5 で追加された VarSave および VarRestore 機能 (VAR_HKEYCURRENTROOTKEY など) は、今回より InstallScript インストールだけでなく InstallScript MSI インストールにも動作します。以前、新機能は InstallScript インストールにのみ動作していました。

1-XRQPO

SdLogonUserInformation の子ダイアログがユーザーのスクリプトから直接呼び出された場合、コンパイルが失敗しました。今回より、これらの関数は次をコンパイルします。

```
SdLogonUserBrowse();  
SdLogonUserCreateUser();  
SdLogonUserListGroup();  
SdLogonUserListServers();  
SdLogonUserListUsers();
```

1-Z2CTB

ダイアログエディタで表示されるダイアログの“キャプション”プロパティは、今回より、InstallScript MSI プロジェクトタイプでは表示されません。ランタイムエンジンはキャプションを IFX_SETUP_CAPTION の値に設定するため、ダイアログエディタの“キャプション”

を設定しても反映されません。

1-Z639E

DevStudio 9 でビルドするときに、InstallScript MSI をレガシー DevStudio 9 形式に保存しても、今回よりビルドエラー -5022 は発生しません。

1-ZF8SS

.msi データベースにアクセスするためのサンプル InstallScript コードがヘルplibライブラリの InstallScript 言語リファレンスに追加されました。

Universal プロジェクトタイプ

1-113YOE

以前は、コマンドラインビルドでプロジェクト .uij ファイルの相対パスを指定した場合、ルートディレクトリ内で CustomCode ディレクトリを検索中に不具合が生じました。今回の修正により、コマンドラインビルドにプロジェクトファイルへの相対パスを指定することが可能となりました。

1-115KS1

アンインストール中に環境変数の削除に関する確認ダイアログは、環境変数それぞれにダイアログを表示するのではなく、“すべて削除” および “すべて削除しない” ボタンを表示してユーザーの入力を一括して記録します。

1-115KSA

今回より、“initializeUI” イベントはウィザード アクション ダイアログに実行されます。

1-1216AI

UNIX ショートカットのカテゴリープロパティは解決されました。

1-12VE93

Windows マシンで “temp” フォルダが削除されない問題は解決されました。

1-138NK1

ダイナミックスイートの ProductSelection ダイアログは、製品に配置された条件を評価して、条件に適合した製品のみを表示します。

1-TIW75

サイレントモードで実行中、Set Variable Wizard アクション が Nullpointer 例外をスローす

る問題は解決されました。

1-Y2XAL

InstallShieldインターフェイスで、名前のないプロジェクトの作成が許可される問題は解決されました。

1-YQNM1

今回より、ライセンスダイアログでテキストファイルの内容がコンソールモードで適切に表示されます。

1-ZZVV7

CustomCode/src ディレクトリがユーザーの読み取りアクセス許可を持っていない場合、コマンドライン ビルドがエラーをスローします。

1-10VAK9

Universal ランタイムエンジンが改良され、ウィザード インストールにかかる時間が短縮されました。

1-13YBLT

インストールされた製品の各インスタンスに対して一意の [プログラムの追加と削除] エントリが作成されるように変更されました。今回より、同じ製品が 2 度インストールされた場合 [プログラムの追加と削除] に 2 つのエントリが作成されます。

1-14H1C1

インストールされた製品の各インスタンスに対して一意の [プログラムの追加と削除] エントリが作成されるように変更されました。ターゲットマシンに製品の 2 つのインスタンスをインストールすると [プログラムの追加と削除] に 2 つのエントリが作成されるため、インスタンスの 1 つをアンインストールすると、対応する [プログラムの追加と削除] エントリのみが削除されます。

1-15S7GT

“5.x ビュー -> インストーラ” で挿入されるウィザードアクションが “動作とロジック -> シーケンス -> 製品シーケンス -> インストールシーケンス” ビューに表示されない問題は解決されました。

1-1AEPWT

EXE ファイルにアドバタイズされたショートカットを作成する際、今回より正常に代替アイコンを指定できるようになりました。

1-1A4X29

今回より、評価版のアクティベート後、製品が再度ユーザーにアクティベーションを要求することはなくなりました。

1-19ZEIT

プロテクトされたインストールをアンインストールしてから再インストールした後に実行した際エラーが発生していた問題は解決されました。

1-19ZEJ2

今回より、Professional Edition をアクティベートした後にも Premier Edition を評価できるようになりました。

1-1884A5

今回よりシリアル番号は、ヘルプメニューの [バージョン情報] ダイアログボックスに表示されます。

1-19TE4N

MSI 3.1 パッチのプロパティは、今回より適切な場所に格納されます。

1-1A5FGN

すべての IIS プロパティは、今回より適切に IIS ビューで表示されます。

1-19ZD7L

InstallScript カスタムアクションは、今回より適切に基本の MSI インストールで動作します。

1-1A5FHB

アップグレードされた Java エージェントを含む Update Service 4.1 は、今回より Universal インストールにも含まれます。

既知の問題

既知の問題の全リストは、ナレッジベースの記事「[Q111355](#)」を参照してください。

[トップに戻る](#)